

小山町立すがぬまこども園評価「自己評価書」

1 小山町立こども園 教育・保育目標

「金太郎のように心豊かでたくましい子」
 かんがえる子 やさしい子 げんきな子

2 重点目標及び具体的方策

重点目標 「げんきいっぱい のびのび遊べる子」

具体的方策

- ・保育者との信頼関係を基盤に、その子その子の表現の仕方や個性を大切にし、発達に必要な環境にかかわり、年齢に応じてのびのびと遊びながら、心身ともに成長できるようにする。
- ・友達とかかわって、遊んだり生活したりする中で、楽しさや喜びを味わったり、時には葛藤や挫折を体験したりしながら、友達と一緒に育つ援助をする。
- ・身近な自然や事象などのかかわりをとおして、発見したり不思議に感じたりしながら知的好奇心を育む。
- ・保育者・友達・高齢者・年少者・地域の人など様々な人とかかわりや自然とかかわり、遊具などのものとかかわりを通して、優しさやいたわりなど心の豊かさを育む。
- ・食事、排泄、衣服の着脱、片付けなどの生活習慣を身につける。また、生活のきまりや社会のルールを学び、みんなが気持ちよく生活ができるようにする。
- ・身近な地域の人や物ことを保育に取り入れ、教育効果を高める。
- ・保護者との連携の強化を図ったり、地域の子育て家庭の保護者同士のかかわりの機会を作ったりして、園が地域の子育ての支援を行っていく。

3 項目別評価

評価項目	項目別評価	評価の理由	職員アンケート結果	保護者アンケート結果
教育目標 ・園目標	B	園目標を念頭に置き、意識した保育を心がけたが、保護者に十分に伝わっていない。	B	B
教育課程 ・保育計画	B	子どもの実態に合わせて実施している保育の共有が不十分だった。	B	A
保育指導	B	保育の振り返りを丁寧に行ない、次につながるような保育を展開することが十分にできなかった。	B	B
研修	B	園内研修を個々の思いを発信できる場として構築していき、計画的に取り組む必要性があった。	B	
特別支援教育	B	全体としての情報共有が不十分だった。組織として、動くことができなかった。	B	

安全管理	B	情報共有や普段できない箇所の安全面での改善に取り組む必要がある。	A	A
保健管理・食事	B	感染症の対応について、アップデートが必要である。	A	B
組織運営 ・情報管理	B	苦情処理の手段など組織について、情報を共有する必要がある。	B	B
保護者 ・地域との連携	A	地域とのつながり、園の良さが発揮できている。コドモンの活用について、年度初めに保護者に丁寧に説明する必要がある。	A	B
施設・設備	A	職員間で連携し、安全点検や見回りが継続して取り組んでいる。	A	A

- (注) 1 評価表示方法「A：十分達成されている、B：達成されている、C：取り組まれているが成果が十分ではない、D：取組が不十分である」
- 2 「職員アンケート結果」は、項目別評価用アンケートを集計したものである。
- 3 「保護者アンケート結果」は、項目別評価用アンケートのうち「わからない」と回答したものを除いて集計したものである。
- 4 「項目別評価」は、「職員による評価」及び「保護者による評価」をもとに、職員で話しあって決定したものである。

4 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組み方法
研修	<ul style="list-style-type: none"> 日々の保育の積み重ねが、子ども達の学びや成長につながるため、日頃から保育について語り合える風通しの良い関係性を築いていく。 今年度の反省を活かして、職員一人一人が自分ごととして研修に取り組めるように、また、計画的に研修を行えるように環境を整えていく。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> クラス単位の情報共有にとどまっている面があるので、園全体で一人一人の子どもを丁寧に見守り支援するためにも情報の共有について、適切な方法を考えていく。 支援方法や保護者・外部との連携など組織としての流れを職員に周知し、担任が一人で背負い込むことのないようにしていく。

5 評価全体を通して(総評)

総合評価	評 価 の 理 由
B	<ul style="list-style-type: none"> 『報・連・相』の徹底と、連絡系統の確認を行い、スムーズな情報共有を図っていくことが前期の課題として挙げた。日々、心がけてはいるものの不十分であると感じている職員も少なくないのが現状である。安全対策の情報共有としてICTの活用が有効だと感じたので、ICTの取り扱い方法の向上も図りつつ、情報共有に適宜活用していきたい。 保護者アンケートの結果を受けて、自分たちがやってきたことに対して自信が出てきている半面で、思いが伝わり切れていない面もあらわになった。子ども達の成長を、喜び合える存在として、園の取り組みや園での子ども達の姿をしっかりと発信して、さらに安心して預けていただけるよう心掛けていきたい。